

《課題名》

大動脈弁狭窄症に対して大動脈弁置換術施行後の患者-人工弁ミスマッチを伴わない患者における左室心筋重量の退縮について

《研究対象者》

2008年1月1日から2013年12月31日までに滋賀医科大学付属病院心臓血管外科において「大動脈弁置換術」を施行された方。

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

（1）研究の概要について

研究課題名：大動脈弁狭窄症に対して大動脈弁置換術施行後の患者-人工弁ミスマッチを伴わない患者における左室心筋重量の退縮について

研究期間： 滋賀医科大学長承認日（2018年11月30日）～2022年12月31日

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学心臓血管外科 鈴木友彰

患者さんの情報を扱うもの： 鉢呂康平、木下武、浅井徹

情報の管理責任者： 鈴木友彰

（2）研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

高齢化の進む日本において、加齢を原因とする大動脈弁狭窄症を患う方は増加しています。そしてその治療は硬化した大動脈弁を人工弁に取り換える手術を行います。大動脈弁置換術後の左室心筋重量の退縮が大きいほど長期予後を改善させることが知られており、また置換する弁が小さいことで起こりうる患者-人工弁ミスマッチを伴う際は術後の左室心筋重量退縮が減少することが知られています。今回の研究では、患者-人工弁ミスマッチを伴わない患者さんにおいて術後弁口面積と左室心筋重量退縮の関連があるかどうかを調べます。術後弁口面積が大きいほど左室心筋重量の退縮がみられれば、患者-人工弁ミスマッチを伴わない方においても術中に可能な限りできるだけ大きい人工弁に置換することが予後を改善させるということがわかります。

（3）研究の方法について

《研究の方法》

当院で管理している患者さんの術前、術後1週、術後3か月、術後1年、術後3年の体重、性別、高血圧の有無、糖尿病の有無および超音波検査データ（左室心筋重量、左室容積、左室径など）を利用し、統計学的処理を行います。

(4) 個人情報の取扱いについて

《個人情報の取扱いに関する記載》

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

(7) 利用又は提供の停止

御本人のデータを本研究に用いることについて、停止を求められる場合には随時下記(8)にご連絡ください。ただし、研究データが固定された後に利用停止のお申し出を受けた場合には、ご本人のデータのみを消去することは困難となりますので、データの全部あるいは一部を本研究に使用させて頂くことになります。

(8) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学心臓血管外科 鉢呂康平

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2244

メールアドレス：hachiro@belle.shiga-med.ac.jp